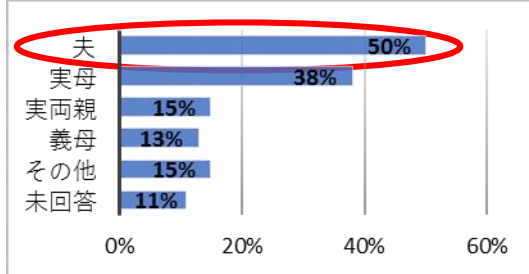


◆母親の子育ての現状

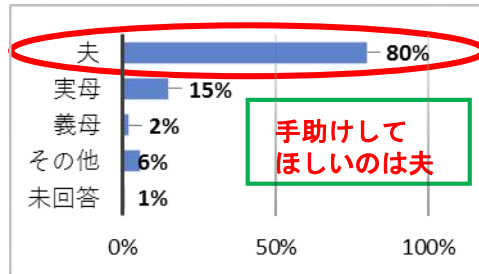
① 1歳未満児の母親（840人）への聞き取り調査結果から

調査内容：県とならコープの共催事業「つながる箱プレゼント事業」で、ならコープの訪問員がプレゼントを渡す際に、聞き取り調査を実施（7月～9月末までに訪問した840人対象）

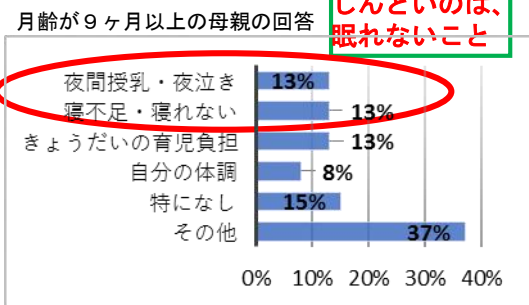
●子育ての手助けをしてくれる人



●子育ての手助けをしてほしい人

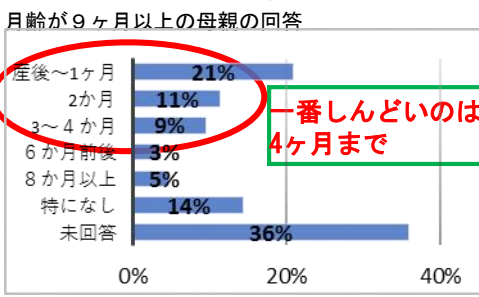


●子育てでしんどいこと



しんどいのは、
眠れないこと

●子育てでしんどい時期



一番しんどいのは
4ヶ月まで



(対象者数：840名 30歳未満176名・30代573名・40代以上68名 不明23名)

② こども・子育て応援県民会議アンケート調査結果から

調査内容：県民会議の委員21名(団体)に対し、「子ども子育て変わったこと・変わらなかったこと」アンケート調査実施

●母親について

- ・妊娠中に保育園選びを始める傾向
- ・保育園に入れるため、希望より早く職場復帰（準備不足）
- ・母親同士の関係が希薄化 ・「孤育て」の増加
- ・子どもが4ヶ月までほとんど外出できない母親がいる
- ・高齢出産の母親は悩みを口にしにくい
- ・子どもの発達段階などの知識がない母親が増えている。
- ・スマホで情報は気軽に入手できるが、選択肢が増え、かえって不安に
- ・情報を入手し、悩みもひとりで解決しようとししんどい子育てに
- ・スマホに子育ての一端を担わせているように思える

●子どもについて

- ・発達のゆっくりの子どもが増えてきている
- ・スマホの普及で疑似や間接体験が多くなる一方、生活体験・自然体験が不足
- ・指導要領の改定で増加した授業時間や習い事など余裕のない忙しい生活

●これから必要だと思う支援

- ・妊娠期から子育てを見通す親支援
- ・夫婦の絆づくりとなる支援
- ・シングルマザーの就労支援
- ・親のつながりや交流のための支援
- ・訪問型支援



◆父親の子育ての現状

父親の子育て支援者への聞き取り調査結果から

調査内容：NPO法人「パパちから応援隊(赤松邦子代表)」の父親の子育てセミナーに参加した700人以上の父親母親の様子について聞き取り

●10年前の父親母親（以下夫 妻）

- ・多くの夫は赤ちゃんを抱くのもあやすのも不得意
- ・セミナーで学ぶと赤ちゃんの扱いが上手になり、妻の評価が上がる
- ・妻は、自分の子育てのやり方を踏襲させようとし、夫のやる気をそぐ
- ・妻は夫の子育ての「門番」役

●現在の父親母親

- ・「イクメン」ブームの影響で、「父親」はできて当たり前の風潮
- ・イクメンでない夫への妻からの風当たり、がっかり感は強い。
- ・イクメンの夫は、妻に求められたことを必死でこなす
- ・家庭は妻の機嫌がよければいいという考え
- ・妻は家庭の「王様」化
- ・実は妻も子育てには不安がいっぱいで自信はない
- ・うまくいってる夫婦は、父親の子育ての関わりに関係なく、妻がしんどい時に気持ちを共有できている



③ 地域子育て支援拠点事業のスタッフへの聞き取り調査から

調査内容：市町村の拠点事業3カ所で、拠点の最近の状況について聞き取り調査を実施

●利用者について

- ・拠点では私立幼稚園の2歳児保育の影響で、2歳児が減り赤ちゃんが増加
- ・6ヶ月までの赤ちゃんの親にとって地域子育て支援拠点は敷居が高い
- ・育休中で、1年程度で職場復帰していく母親が増えた
- ・親同士の話題が仕事復帰や保育園の事が多くなっている
- ・働く女性が増え、平日のイベント参加者は減少
- ・父子だけのひろばの利用が増えた

●拠点の課題について

- ・親子の性格、家庭状況、心身の状況など多岐にわたる理解が必要
- ・スタッフには有資格者（保育士等）も多いが、親に長時間関わるのは不慣れ
- ・拠点の規模ややり方により課題が異なる
- ・支援は奥が深い研修の機会がない